

タイトル

『汐製菓会社の新作㊦アイス㊦』

登場人物

- ・ 汐（30代）… 汐製菓会社の社長。「面白きことも無き世を面白く」をモットーに、奇抜なアイデアを次々と生み出す天才。常に前向きで、周囲を振り回すこともしばしば。

- ・ 塩田（30代）… 汐の秘書。真面目で几帳面だが、汐の突飛な発想にいつも振り回される。お菓子好きで、密かに新商品の味が気になる。

第一幕…始まり（10分）

場面一…社長室

（汐の机にはいくつものお菓子のパッケージが散らばっている。塩田は書類を整理しながらも、汐の様子を気にしている。）

汐「よし、決めたぞ！」（急に立ち上がる）

塩田「何か思いついたんですか？」（心配そうに見る）

汐「次の新商品だ！『天津飯味のアイス』！
どうだ、斬新だろう？」

塩田「…天津飯、ですか？アイスに？」（絶句する）

汐「そうだ！ご飯の上にふわふわ卵、あの甘酸っぱい餡を冷たくして、サクサクの餃子でもトッピングしてやれば、間違いなく大ヒットだ！」

塩田「それ、本当に大丈夫なんでしょうか

…？売れるかどうか心配です。」

汐「売れるかどうかじゃない！『面白き』とも
無き世を面白く』、これがうちの信念だ！」

（胸を張る）

（塩田は呆れつつも、これ以上止められないと
悟り、静かにうなづく。）

第二幕：アイス試作（20分）

場面②：開発室

（開発室では、商品開発チームが「天津飯ア
イス」の試作を進めている。塩田は試作品を
前に、眉をひそめている。）

塩田「…これ、本当にアイスなんですか？」

（疑わしげに見つめる）

開発員A「卵の部分はクリームっぽくなったん
ですけど、餡が固まらなくて…。あと、ご飯が
冷えるとちよっと固くて。」

開発員 B「でも、社長の指示通り、天津飯っ
ぽさは残してます！」

（そこに汐が颯爽と登場し、試作を興奮気味
に覗き込む。）

汐「すごいじゃないか！まさに天津飯そのもの
だ！冷たくなっただけだ！」

塩田「それが一番の問題なんですけど…」

汐「よし、試食会だ！大々的に発表しよう！
世界中のバイヤーを呼べ！」（意気揚々と出
ていく）

塩田「えっ、試食会！？」（困惑しながら追
いかける）

第三幕：試食会（25分）

場面 3：試食会場

（汐製菓の本社にて、国内外からメディアや食品バイヤーたちが集まり、天津飯アイスの試食会が始まろうとしている。全員がその奇抜なコンセプトに半信半疑。）

司会者「それでは皆様、本日の目玉、新作アイス『天津飯味』のご試食をどうぞ！」

（スタッフが小さなカップに入ったアイスを配り始める。参加者たちは不安そうにスプーンを手に取る。）

塩田（心の声）「お願いだから、せめて無事に終わって…」

（国内のメディア関係者たちは疑いの目を向けながら、恐る恐るスプーンを口に運ぶ。）

日本人試食者A「天津飯アイスって、正気なのか？」

日本人試食者B「まあ…一口だけ試してみるか…」

(しばらくの沈黙が流れるが、外国人バイヤ
ーの一人が大胆に一口食べ、突然大きなり
アクションをする。)

バイヤーO(アメリカ人)「ホワッツ!?何だこ
の味!?甘くて酸っぱくて…ケチャップ!?
これは革命的だ!」(目を大きく見開き、笑
顔になる)

バイヤーR(フランス人)「なんという…アート
だ。だが、食べ物なのか?」(頭を抱えるが、
再度一口食べる)

バイヤーM(イタリア人)「マンマ・ミーア!これ
はまるでピザとアイスが合体したようなもの
だ!新しいジャンルだ!」(両手を広げて熱
弁する)

(その様子に他の日本人たちもつられて食べ
始めるが、依然として微妙な反応。)

メディア記者A「うーん…正直、理解できない…」

食品評論家B「スイーツ？それともご飯？胃が混乱している…」

（しかし、さらに熱狂的な外国人バイヤーたちが続く。）

バイヤーC（中国人）「天津飯の国から来た私が断言しよう！これは奇跡だ！冷たい天津飯なんて誰が想像した！？これは中国で大ヒット間違いなしだ！」（拳を突き上げる）

バイヤーD（ドイツ人）「ワンダーバー！デザートか？主食か？それとも新しい何かだ！これはグローバルフードの未来だ！」（大興奮）

バイヤーE（韓国人）「SNSにアップしたら絶対バズるぞ！この奇抜さは若者受けする！『変わり種アイス』のタグで拡散だ！」（写真を撮りまくる）

バイヤー」(インド人)「スパイスが足りないが、この甘酸っぱさ…クセになる！次はぜひカレ―味をお願いしたい！」(強くうなづく)

(会場全体が次第に盛り上がり始め、ついには拍手まで起こる。汐は満足そうに腕を組む。)

汐「ほら見る、世界が認める味だろう！」

塩田「…本当に、どうなってるんでしょう

か？」(呆れながらも笑顔)

第四幕…大逆転(10分)

場面…社長室

(試食会から数週間後、社内は注文が殺到して忙しそうに動いている。)

塩田「信じられません…あの天津飯アイスが国内外で大ヒットしてるなんて…！」

汐「そうだろう、塩田。やっぱりこの世の中、面白くしなきゃな！」

塩田「…相変わらず社長の発想には驚かされます。」

汐「よし、次はもっと大胆にいこう！今度はたこ焼きアイスとか、どうだ？」

塩田「（絶望的な顔で）またそんなアイデアですか…」（頭を抱える）

（場面が暗転し、笑い声が聞こえる。エンディング曲が流れ、二人のやり取りが響き渡る。）

【完】